

5 内観パース

市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン



## 特定テーマ2に対する企画提案

## 1 現状分析

駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保

特定テーマ2を提案するにあたり、まずは、現状の分析を行いたいと考えます。

検討会資料、また岡山県民・一利用者の視点から、駅前広場空間の現状の各動線についての問題点を設定された駅前広場レイアウト計画案の各ゾーン毎に抽出してみたい、と考えます。

## ■ 修景ゾーンについて

このゾーンは、主にイオン岡山等駅南側周辺施設へ向かう歩行者の歩行動線となっています。

しかし、駐輪場、地下街連絡階段が駅への視線、動線を遮り、駅舎へのアクセスが良好とは言えない状態と言えます。

また、駐輪場の自転車の動線と歩行者動線が交錯しているのも好ましい状況ではありません。

ターミナルスクエアとの境界沿いもレベル差を解消するための立ち上がり壁があり、駐輪場のわきの狭い歩道をすり抜けるような状態となっています。

## ■ バスゾーンについて

バスロータリーの東側の駐車場に行くには、ロータリーをぐるりと回らなければならない動線となっています。バス利用者は、比較的に交通弱者の方も多数いらっしゃると思われます。この動線の短縮化は大いに有益であり、利便性の向上が劇的に上がるものと思われます。

ガード支柱、柱などがあり、歩行空間が十分なスペースを確保出来ていない状況と思われます。それに伴い、休憩ベンチも設置してはありますが、あまり使われていない、使いづらい状態と言えます。

## ■ おもてなし、イベント、待合ゾーンについて

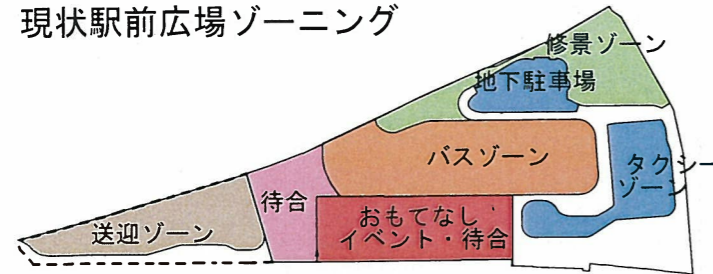
バス停へのアプローチの庇、植栽、地下街への階段、モニュメント等が雑然とあり、雑多なイメージとなってしまっています。動線的にも見通しがきかず、分かりにくい空間となっています。各排気塔、換気塔、地下街への階段等を関係法令を遵守しつつ、縮小化、配置変更等の整理が必要と考えます。



現状分析からの動線上の問題点リスト

駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保

現状駅前広場ゾーニング



修景ゾーン

- 1: 駐輪場動線と歩行者動線の交錯
- 2: 歩行者動線が狭小
- 3: 駅舎への視界を阻害。
- 4: 使われていない階段の整理 (有効活用/中止)
- 5: 視界確保のための排気塔、換気塔の縮小化、もしくは整理中止

バスゾーン

- 1: 一部のバス停への動線が長い
- 2: 階段等がある場所では、歩行者動線が狭く、休憩スペースも狭い。
- 3: 中央部の換気塔が見通しを遮り、駅広場をわかりにくくしている。
- 4: 使われていない階段の整理 (有効活用/中止)

タクシーゾーン

- 1: タクシー案内所が老朽化しており、美観上好ましくない。
- 2: ももたろう観光センターは広場に面している方が好ましい。
- 3: 広場に面している駅舎側の壁面が外向き店舗や広告等に利用されていない部分があり、にぎわいを生み出していない、活気に欠ける。

送迎ゾーン

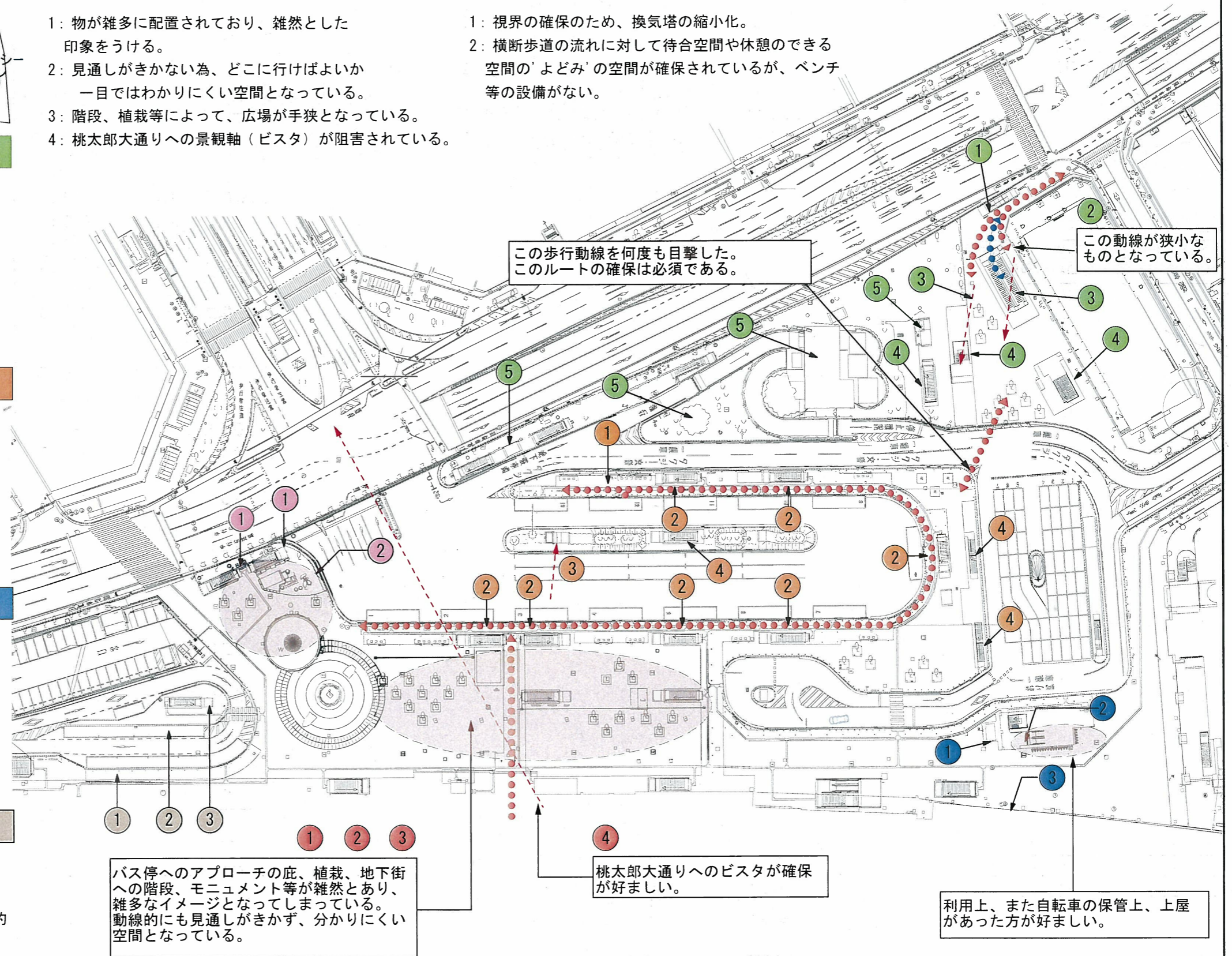
- 1: 意匠上庇は統一されたデザインのほうが好ましい。
- 2: 現状は運用上の昇降スペース全体に対して、部分的にしか庇がない。
- 3: 視界確保のため、換気塔の縮小化、もしくは解体/新設が好ましい。

おもてなし・イベント・待合ゾーン

- 1: 物が雑多に配置されており、雑然とした印象をうける。
- 2: 見通しがきかない為、どこに行けばよいか一目ではわかりにくい空間となっている。
- 3: 階段、植栽等によって、広場が手狭となっている。
- 4: 桃太郎大通りへの景観軸(ビスタ)が阻害されている。

待合ゾーン

- 1: 視界の確保のため、換気塔の縮小化。
- 2: 横断歩道の流れに対して待合空間や休憩のできる空間の'よどみ'の空間が確保されているが、ベンチ等の設備がない。



この歩行動線を何度も目撃した。このルート確保は必須である。

この動線が狭小なものとなっている。

バス停へのアプローチの庇、植栽、地下街への階段、モニュメント等が雑然とあり、雑多なイメージとなってしまっている。動線的にも見通しがきかず、分かりにくい空間となっている。

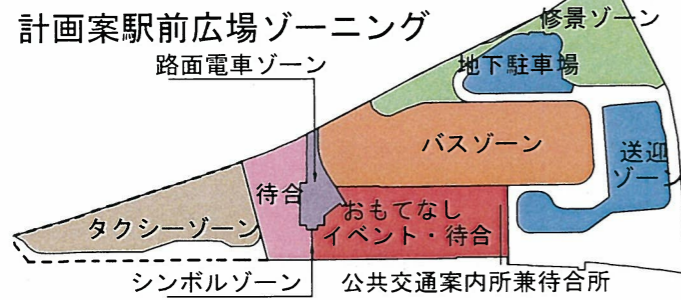
桃太郎大通りへのビスタが確保が好ましい。

利用上、また自転車の保管上、上屋があった方が好ましい。

3 問題点解決のための改善点提案リスト

駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保

抽出された問題点に対して、具体的な改善案を企画提案したいと思います。



修景ゾーン

- 1: 新しい動線の創出による駐輪場動線と歩行者動線の分割
- 2: 隣地との一体活用による歩行者動線の拡幅
- 3: 視界確保のための駐輪場の上屋縮小。
- 4: 使われていない階段の有効活用
- 5: 視界確保のための排気塔、換気塔の縮小化、もしくは整理中止 (※換気容量等の具体的な検討は未検討です。)

バスゾーン

- 1: バス停への動線の短縮化のためのブリッジの新設
- 2: バス停底空間の効率的レイアウト
- 3: 中央部の換気塔の縮小化
- 4: 使われていない階段の整理・中止 (各種関連法規との整合は未整合です。)

タクシーゾーン

- 1: バス停庇と同一の意匠に統一。
- 2: 降車場上部に庇設置

送迎ゾーン

- 1: 一般車降車場への庇の設置
- 2: ももちゃり岡山東口ポートへの庇の設置。

待合ゾーン

- 1: 移動空間と待合空間のゾーンの分離。
- 2: 待合空間に噴水、ベンチを設置し、憩いの空間に。

おもてなし・イベント・待合ゾーン

ガラス大屋根による軒下空間「ももたろうルーフ」を計画します。ももルーフの下は階段や換気塔が整理されていますので、見通しのきく、行きたい場所がわかりやすい、空間となります。そして、イベント等が十分な広さを確保でき、レイアウト・フリーで開催できます。

動線上も雨の日も気にすることなく自由に歩ける歩行空間で、各交通機関へもスムーズにアクセスできるマルチ・アプローチ・ゾーンとなります。

岡山に降り立った初めての場所となりますので、県都の玄関口にふさわしい、にぎわいの拠点となる、新しい公共広場となります。

1 ■ブリッジの新設

バス停への動線の短縮化のため、ブリッジを計画します。屋根のある、屋内型のブリッジで、両サイドをガラスで仕上げ、開放的なブリッジとします。ブリッジの両端部には、階段とエレベーターを計画し、誰でもが使いやすい、ユニバーサルデザインとします。東側の階段・E.V棟には、待合と兼用できる展望空間も計画し、桃太郎大通り、市役所通りのダイナミックな都市景観が体感できます。

4 ■ポケットパークの新設

駅南の周辺施設へのスムーズな歩行動線の確保のため、ポケットパークを計画します。歩行移動の目的物となるとともに、ガラスの屋根、ベンチ、植栽等を整備し、動線上の憩いのスペースを創出します。また、ガラス屋根を既存階段の上部に整備することによって、あまり使われていなかった階段の有効利用に寄与します。

2 ■バス停底空間の効率的レイアウト

バス停底空間を効率的にレイアウトします。現在は、柱が庇の中央にあり、移動するにも、休憩するにも、狭くなっています。柱を庇端部に計画し、庇下を広く使えるようにします。石柱ガードポールは、その役割を柱で代替できる事により中止とします。(進入防止対策は行います) 屋根はガルバリウム鋼板、軒天は県産ヒノキルーバーとし、木の香りのする、気持ちの良い空間とします。昇降口部分の上部にはガラス屋根を設置し、明かり取りと共に庇軒下空間のアクセントとします。

1 ■ゾーンを分離

1 ■移動空間/待合空間のゾーンの分離

路面電車を引き込む事によって、その運行の安全性の確保の観点から、歩行動線の緩やかな誘導が必要と考えます。また、移動/待合(電車待ちを含めて)と言う活動(アクティビティ)の違いから、その2つのアクティビティは緩やかに分割した方が好ましいと考えます。歩行空間と待合空間の間に高木の植栽等を計画する事によって、それぞれの空間を緩やかに分割します。

- 1
- 2
- 3

■新しい歩行者動線の創出

駐輪場動線と歩行者動線の交錯を解決するため、新しい歩行者動線を計画します。隣地ターミナルスクエア側のレベルまでGLラインを落とし、隣地側と一体となった広幅員の歩道として整備します。歩行者は、以前の狭い歩道では、歩きづらく、選ばなかった歩行経路ですが、広くなった歩道として整備する事によって、自然とこのルートを選択し、動線の交錯が解消されます。また、排気塔など視線を妨害していたものを整理する事によって、このルートがスムーズな駅への動線となります。

階段・スロープの新設

■横断歩道新設

桃太郎大通りへのビスタを確保

ガラス大屋根の軒下空間・「ももたろうルーフ」

